

(別紙)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2072100312		
法人名	社会福祉法人法延会		
事業所名	グループホーム旧軽井沢		
所在地	389-0102 北佐久郡軽井沢町大字軽井沢222番地1 (電 話) 0267-42-8631		
評価機関名	有限会社 エフワイエル		
所在地	松本市中央二丁目7-21川上ビル2F		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	

【情報提供票より】 (平成19年8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	16 人	常勤	5人, 非常勤11人, 常勤換算5,87人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての 1 ~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月13日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 86,6 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木家医院、坂口医院、軽井沢病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「気配り」・「目配り」・「思いやり」を持って、経験豊富な管理者を中心に利用者の生活を支えています。法人の敷地の自然環境を最大限に活用して、居心地の良い、生き生きと生活していける空間作りをするなど、生活環境への配慮は充分にできています。食する喜びを共有すると共に、栄養士による献立も魅力のひとつであり、上手く併設施設との連携が取れています。このことが利用者・家族にとっては喜びであり、ホームへの安心・信頼となっています。行政との連携体制は、併設施設において長い歴史が有り、地域ニーズに応じて地域密着型サービスを開始した様に、先駆的な活動を行っています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 過去の評価での要改善点は、職員の取り組みによって実施されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 職員間で話し合いの場を設け、具体的な改善への取り組みがうかがえます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 利用者家族、ホーム職員、地域代表、関連機関担当者等を加えた運営推進会議が開催されており、ホームから地域へ「認知症ケア」等の情報発信を検討している。今後予想されるターミナルケアについての検討を行なう等、将来的な問題についても議論されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 利用者の様子を伝える仕組みはできており、機能している。家族代表を運営推進会議のメンバーに加えるなどして、意見・苦情・不安のくみ取りに生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 利用者が地域の一員として各種の会合に参加し、地域の方との親交を深めている。職員は利用者の社会奉仕活動にも積極的に支援し、広報誌の地域への回覧等を通じて情報の発信もしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ICFの考え方を取り入れ、住み慣れた環境を活用し、その人らしい暮らしの支援を理念としている。	○	地域密着型サービスとしての理念の見直し等、わかりやすい言葉で職員との共有が更に出来るようにすることが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティング、職員会等で話し合いの場を持ち、職員一人一人が共有しケアに生かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区員の一員として老人会・自治会等の交流会に参加し、地域の方との親交を深めている。利用者の提案で職員と共に530運動に貢献しており、広報誌の回覧等ホームの理解を深めている。	○	今後重度化する利用者の、可能な社会参加を考える必要を感じます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や狙いについて職員全員で話し合い、自己評価の取り組みをしている。過去の外部評価の結果については、改善に向けて具体的に実践し、質の向上に生かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見の反映に努めている。	○	運営推進会議のメンバー構成を見なおし、多彩な意見が頂ける構成にしてみる事も必要かと思えます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との係わりは深く、地域の要請の基に介護教室等の開催を通して協働が見られる。		情報交換や連携を取りながら、更に積極的な関係作りを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子、健康管理、金銭管理等は面会時に報告したり、電話にて報告している。広報誌には利用者の様子も掲載している。		家族の来所時には、職員とゆっくり話ができる時間を確保することも必要かもしれません。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の必要性は感じているが、現状では困難であり、運営推進会議のメンバーとなっている家族が、相談・苦情を言える仕組みを作っている。		相談・苦情を、更に述べ安い窓口体制を検討してみることも必要かと思えます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は併設施設で介護経験を積み、ホームの利用者と夜勤にて関係を作り、馴染みとなつてから異動となるので係わり方はスムーズに行なわれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を踏まえ、法人内外の研修には積極的に参加できるよう、情報の提供と機会の確保を図っている。研修内容は職員が共有する仕組みが機能している。		年間計画を作成する等、グループホーム及び職員を育てるという気持ちを、全員で共有することが今後必要ではないかと思えます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会での研修・意見交換を行い、見学も含め同業者との連携を図っている。		グループホーム同士の外部評価も、今後視野に入れてみるのも良いでしょう。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、ショートステイ等を利用し、職員・他の利用者となじみの関係を作り、本人・家族が安心して利用開始が出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす気持ちを共有し、思いを寄せ合い共に生活する、良い関係が作られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本意に快適な暮らしが出来るよう、日々の生活の中で、意向・希望をくみ取り、その時々本人に合った対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の協働で計画を作り、利用者・家族の説明と同意を得て、統一したケアを行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状にあった介護計画を立てるため、職員全員でカンファレンスを行なっている。	○	計画の見直しの場合、早期に新たな計画作成をすると共に、評価の結果がひと目で分かる記録方法を考えてみてはどうか。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師との24時間体制が整っており、利用者の入院回避、早期退院の支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望にあった医療機関で受診ができ、場合によっては家族の納得を得て、近くの医院での受診の体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の気持ちを大切に、希望どおりのターミナルケアができるよう取り組んでいる。また、家族・職員・医師の間で統一した方針が共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のプライバシーの保護に対する意識は高く、介護計画にも具体的な対応の配慮が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが幅があり、利用者の希望にも柔軟に対応している。本人の希望によって、故郷訪問・馴染みの場所へのお出かけ等も実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を暮らしの中で重要なものと位置付けている。買い物・献立をはじめ、できる範囲で職員と協力している。また食する楽しい時間を共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添い、的確な入浴・清潔保持に努めている。併設施設の特浴が利用できるのは家族にとっても安心である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割、楽しみを模索し、体調を考慮しながら、庭仕事、洗濯片付け、食事手伝い等、張り合いを持たせている。レクレーションの他に、おやつ作り、果物のジャム作りの内職等を手配するなど、利用者の生活歴を生かした取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って散歩・買い物をし、庭での体操、テラスでのお茶会等、戸外でも気分転換ができるように配慮している。		現在は皆車いす使用となり、外出支援は困難ではあるが、継続されることを望みます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の必要を感じないケア体制が分かります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署・地区消防団・民生委員・地域住民の協力の下に、避難訓練を実施している。併設施設が地域の避難場所に指定されており、地域との避難対策が伝統的に構築されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立によって、利用者はバランスの取れた食事をしている。嫌いな食べ物については代替品を用意し、各種の摂取量に気を配ると共に、利用者に対応した食事形態の個別支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	軽井沢の自然の恵みを充分に取り入れた構造で、照明・採光等にも配慮し居心地の良い環境作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物が飾られており、その人らしい居室となっている様子が感じられます。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。